

クチン（MR ワクチン）を、生後12～23か月と小学校入学前1年間に計2回接種する（予防接種法）。

3. 突発性発疹

exanthema subitum, roseola infantum

★

Essence

- ヒトヘルペスウイルス（HHV）の6型，7型による感染症。乳幼児に好発。
- 突然の高熱が3～4日持続，解熱とともに全身に麻疹様発疹。皮疹は融合せず，色素沈着などを残さずに2～3日で消退。
- 熱性痙攣を合併することがある。

症状

約2週間の潜伏期を経て，突然の高熱（38～39℃）で発症する。高熱は3～4日持続するが，児は元気であることが多い。しばしば下痢や軽度の咳を伴う。解熱とほぼ同時に，顔面と体幹に淡紅色斑を生じる。皮疹は融合せず，色素沈着などを残さずに2～3日で消退する（図23.28，23.29）。6～15%の症例で発熱時に熱性痙攣を伴う。ごくまれに急性脳炎や肝機能障害を合併する。

病因

HHV-6のB型とHHV-7によるとされる。HHV-6は唾液を介して感染するが，通常は母親由来の受動免疫により新生児は発症しない。よって生後6か月から3歳までの幼児に発症する。

診断・治療

特徴的な臨床経過から診断可能。約2/3の例で，口蓋垂の根本部分のリンパ濾胞が腫脹発赤し，診断の参考になる〔永山斑（Nagayama's spot）〕。治療は対症療法になるが，アスピリンはReye症候群の危険があるため用いないほうがよい。

痘瘡（天然痘：smallpox）★

MEMO

blueberry muffin baby

MEMO

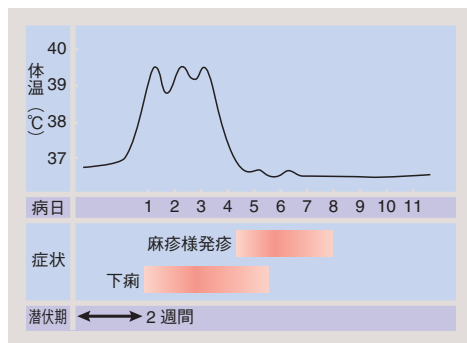


図23.28 突発性発疹の経過

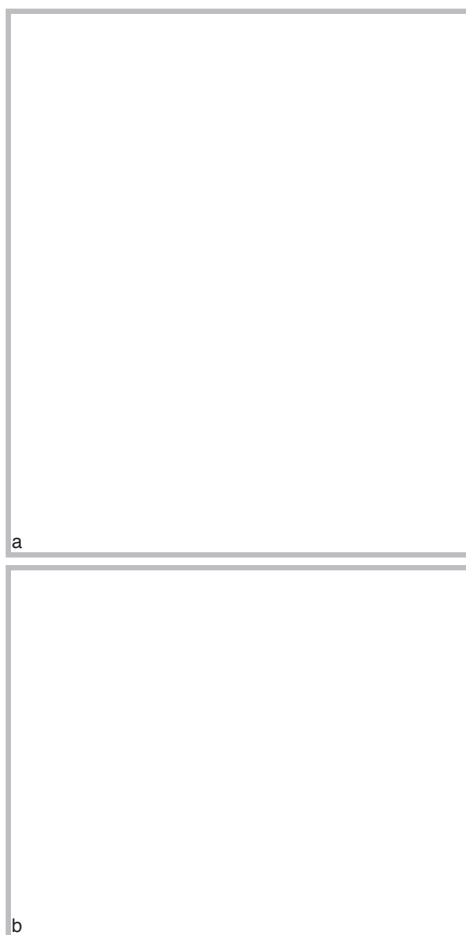


図23.29 突発性発疹（exanthema subitum）
a：背部に多発する淡紅色斑，b：拡大像。